

初學問答

特47

484

禁複写

020751-000-9

特47-484

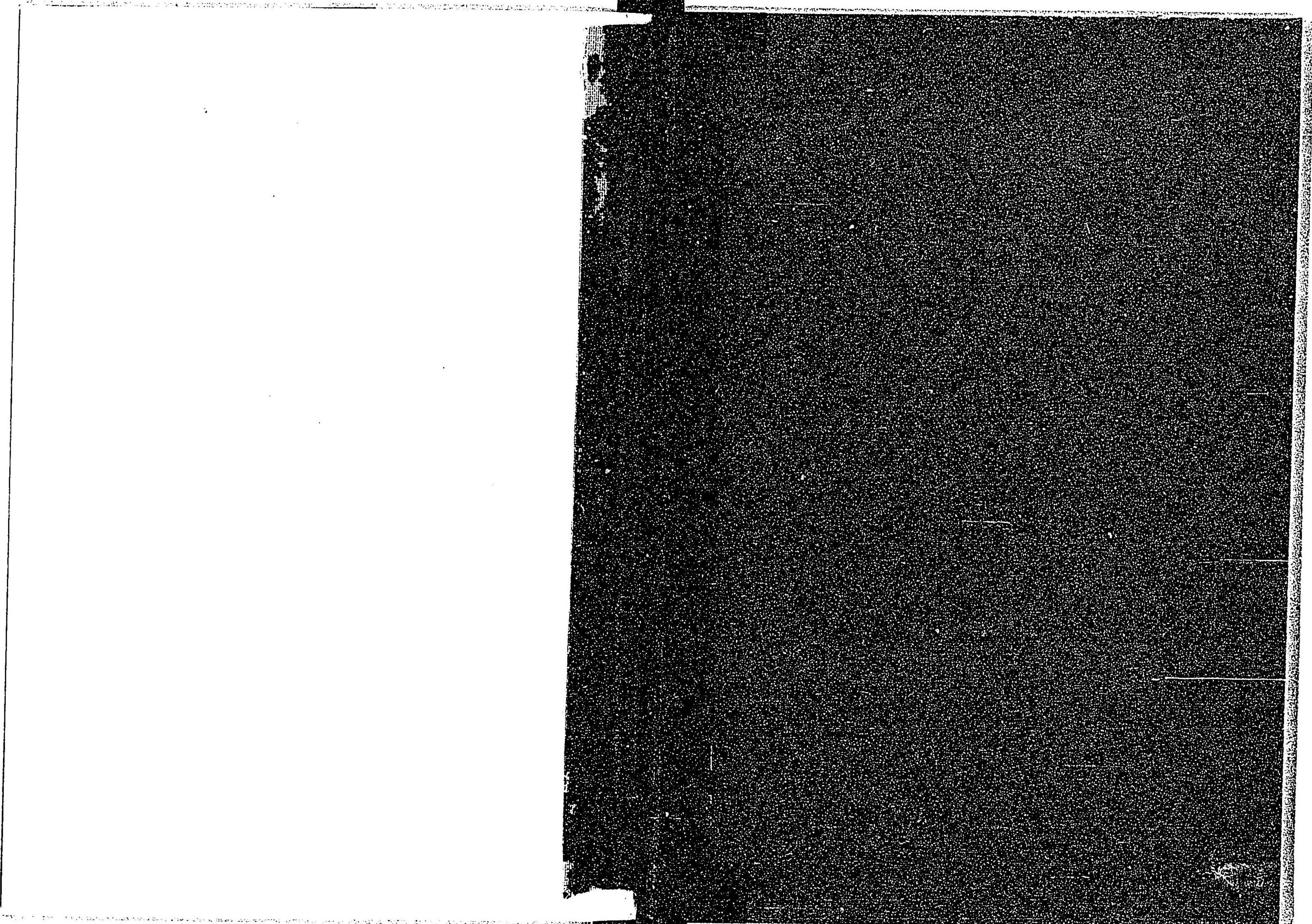
初學問答

奥野 昌綱/訳

M22

ABI-0572





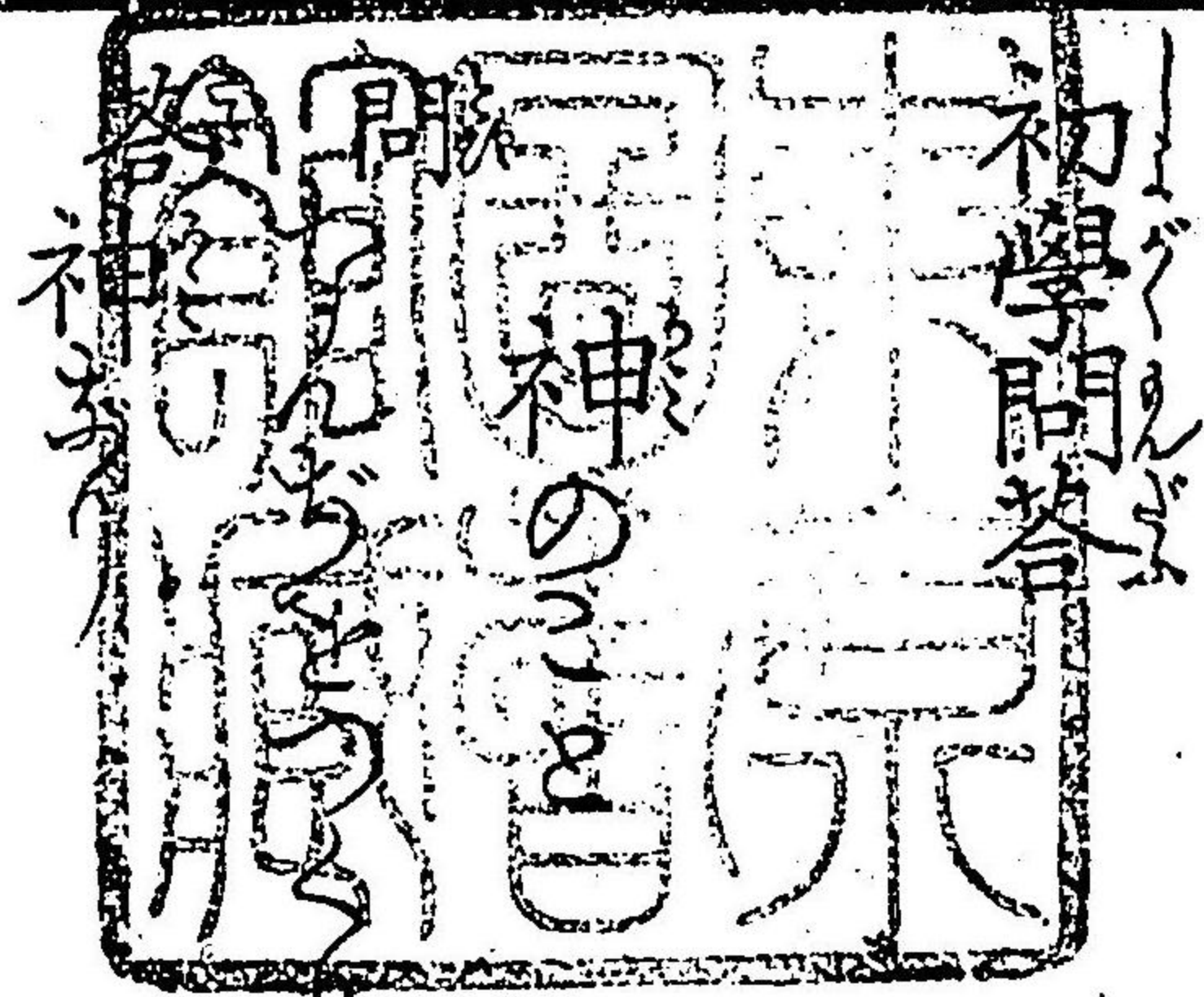
e X 653

125  
/  
600

初學問答  
全

特47  
484

No 14662



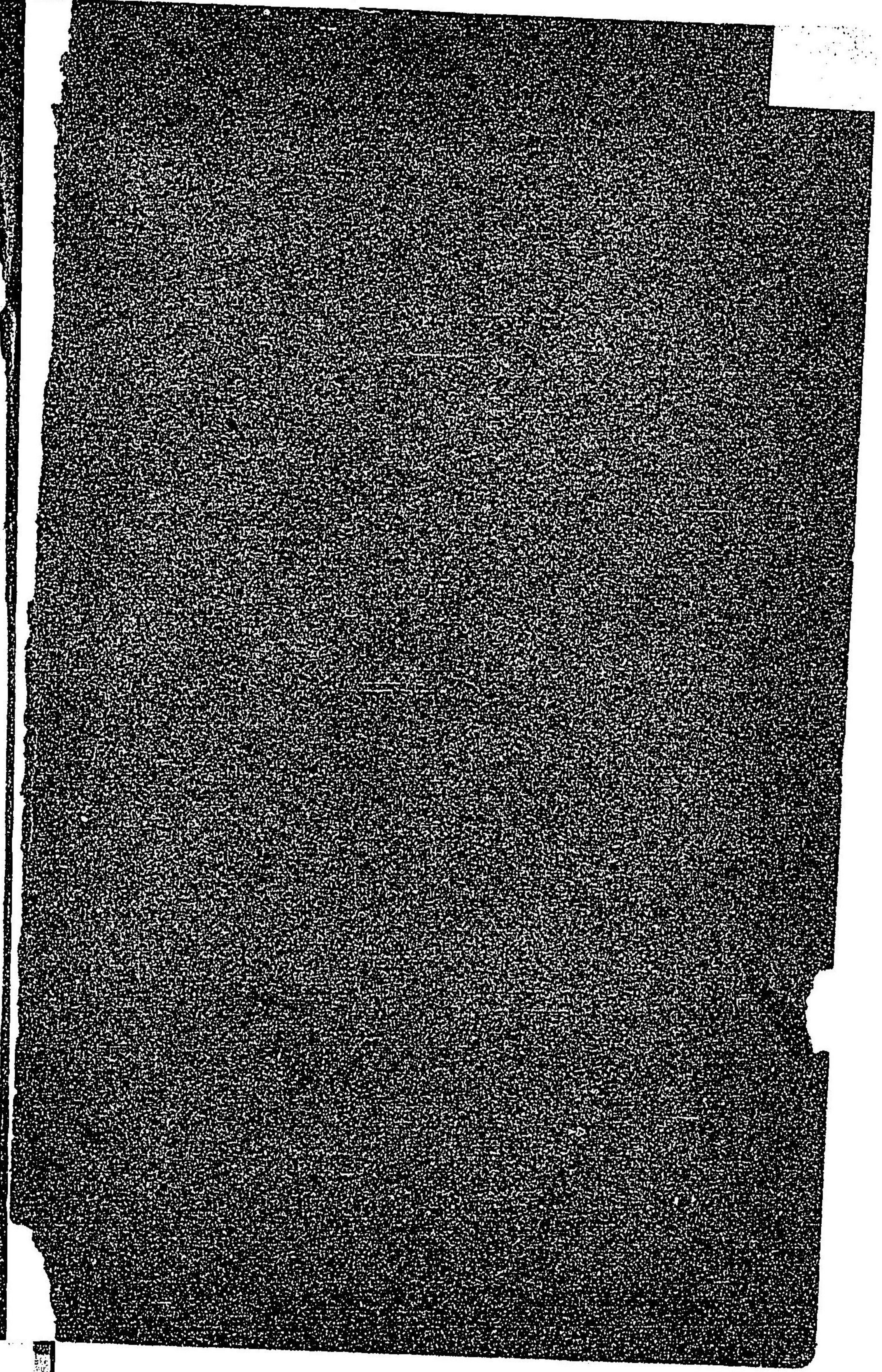
のいたれぞや



一  
神はかんぢのそとにまにまにさつりあひや

二  
○神はよりづれものさつりあひや

三  
神はまにゆきかんぢよりづづの物を造るや



七  
 ○神はたゞひとをさしおこす  
 このひとをさしおこすの神とて  
 六  
 わたしはいつくしうあるが  
 ○神はれとてくつと又はれと  
 五  
 かんぢあふはるよ神の威光と  
 四  
 かんぢいあふく神の威光と  
 ○神とありきよのまはる  
 ○神はたゞひとをさしおこす  
 ○神はたゞひとをさしおこす  
 ○神はたゞひとをさしおこす

八  
 ○三つ  
 そのまはるはかんぢ  
 ○父と子と聖霊と  
 九  
 かんぢいあふく神の威光と  
 ○神はたゞひとをさしおこす  
 十  
 神はたゞひとをさしおこす  
 ○神はたゞひとをさしおこす  
 十一  
 かんぢ神はたゞひとをさしおこす



十七 神カミこれらの始祖ハジメノミコトとよみよしのよみよしくしむるひや

○神つちをめてアダムアダムのうらむをりつくりアダムアダムの  
かみよりエバエバをりつくりあひ

十八 神アダムとエバエバかみよりのほろよあねを賜たまひや

○神はいつて死ぬしぬまじきまじきひを賜たまひや  
汝きみかみよりのほろたまひをさすか

十九 ○きかしくいも死ぬしぬまじきまじきひをさすか  
汝きみたまひをさすか

二十

廿 〇その我われ神のあと後の世よのあと思量しやうりやうされば  
神アダムとエバエバといかあふのよ造つくりあひや

○神彼等かれらとよみよしく福ふくあふみのよ造つくりあひや  
業わざの契約けいやくのこと

廿一 契約けいやくといふんぞや

○かれとこれとあひさへんたふす

廿二 神アダムと對たいへあにの契約けいやくとなてあひや

○業わざの契約けいやくとなてあひや報むくみのちあひや

昔

業わざの契約けいやくのためよアダムアダムのオモいごとく何なにぞや

○神かみよ全まことくあつがよことあり

昔

業わざの契約けいやくのうちよ神かみのまにを約束やくそく—あひ—や

○アダム神かみよあつがりかみ限かぎあついのちよあつと  
くやくそく—あひ—あり

昔

業わざの契約けいやくのうちよ神かみのまにを—あひ—あり

○アダム神かみよあつが死しよあつと—あひ—あり  
あひ—あり

昔

アダムアダムのオモいごとく—あひ—あり

○いよ神かみよあつと—あひ—あり

昔

—あひ—あり

○—あひ—あり

昔

—あひ—あり

○神かみのオモいごとく—あひ—あり  
—あひ—あり



卅

どうぞといふんのことるぞや

○神きんの禁きんどあひことりたはちたつ

罪つとよおつこと

卅

これらのちどめのためにつもいかにぞや

○神きんの禁きんどあひことりたはちたつ

このつもと犯とがきおりにいぢかひもいたれぞや

○悪魔あくまエバといぢかひエバアダムあだむふ果くわいと與あひり

卅

卅

これらのちどめのためにつも犯とがきよその身み

よきことなや

○アダムあだむのちどめのためにつも犯とがきよその身み

よきことなや

卅

アダムあだむのちどめのためにつも犯とがきよその身み

のこころけや

○いかにそのちどめの子孫こくわんふたりにこれと愛あいり

アダムあだむのちどめが万民ばんみんにふたりにこれと愛あいり

卅

廿六 ○万民ばんみんつゝあつてたやめるあつちまふらうまふくも也あり  
 されらがアダムよりうけつぎたふつゝある性質せいかつを  
 ちふといふや

廿七 ○原罪げんざいといふあり  
 つゝいまづてあふのちくふとつゝいふまふ

廿八 ○神のおんいかりとをちあり  
 たれふせふつゝある性質せいかつを天てんよりつゝとつゝ  
 るものありや

廿九 ○いかなもこれらのこころおちらざれば天てんよいら  
 ことあつてまふ  
 こころのおちこころをちよいらや

三十 ○うまれおちこころあり  
 罪つみあるものこころをちこころもの誰たれがや

三十一 ○聖靈せいれいのこころ  
 業わざの契約けいやくよりてまふひとをちこころをち  
 ○いふ業の契約けいやくよりてまふひとのあつて

聖三

かみよひのよのよの契約よきとて救ふべしとて  
や

○人々よきとてよのよの契約よきとて救ふべしとて  
られしれはとて

恩の契約のこゝろ

聖三 父よきとて神にされしれとてよのよの契約よきとて救ふべしとて  
○その始にたて給ふよかおん子キリストよきとて

たてのひりあり

聖四

キリストめぐるの契約よ於て誰の代とあり給ふ

○そのえらびひびづのかさりとありあり

聖五

キリストめぐるの契約よ於て何を引受るひりや

○その民のためにおきてよきとてありあり

その罰よきとて罪よきとてありあり

のひりあり

聖六

これらの主イエスキリストハあるの

とかりあるひーとあるひーや

○いやキリストのきよく穢<sup>けだ</sup>さをへんがみかたを  
まり

聖 神のおん子いづく苦とつけたまふづかや

○神のおん子キリストのわれらの性質<sup>せいしつ</sup>を神のお  
きてよ従<sup>したが</sup>ひ苦と受<sup>う</sup>けたためよ人とあつるひーゆえ  
あり

哭 あがやひとのちんのこころぞや

○キリスト罪<sup>つみ</sup>ある人よあまうやおのれめ苦と死と  
よよりて神の公義<sup>こうぎ</sup>を満足<sup>まんぞく</sup>しることあり

罪 父<sup>ちち</sup>ある神のめぐみの契約<sup>けいやく</sup>よあよと約束<sup>やくそく</sup>しるひーや

○キリストのあがやひよあつるものよ義<sup>ぎ</sup>を  
聖<sup>せい</sup>とありしことあり

平 義<sup>ぎ</sup>とあるものなんぞや

○これの神がつかうある人よあまうをたよめて罪<sup>つみ</sup>  
を犯<sup>とが</sup>さぶるものよあまうをたよめて





空

○まじらんともなる救者きうじやを信しんずるよよりてあり

その信しん仰やうするもよきなり

○神かみの牲しやうとてなるよよりてあり

空

この牲いけにえはあまをあらはせしむ

○罪人つみびとのためふ死しんする神かみのこひつぐキリスト

とあり

空

キリストにあんの職しやくあり

○キリストの職しやくあり

空

その職しやくはあまをあらはせしむ

○代か宣せん者しやと祭まつり司しと王わうの職しやくあり

空

キリストいうより代か宣せん者しやなり

○キリスト神かみの御みもねをあらはせしむ教しやくあり

空

キリストいうより祭まつり司しなり

○これらの罪つみのためふ死しするよよりてあらはせしむ神かみ

とあり

空

キリストいうより王わうなり





○ひらぎよあのみかしのあはれをなげかへしを教  
ふ

廿六 十識じゆしきのあはれなりあへて

○ひらぎよあのみかしのあはれをなげかへしを教  
ふ

廿七 かながのあはれなりあへて

○ひらぎよあのみかしのあはれをなげかへしを教  
ふ

廿八 神とあはれをいかにしと神のこゝろをいかに

廿九 神を愛せむものを神になくともいかに

○志かり神にねよ悪人あくじんをいかにいかに

卅 第一だいいちのいまめにかんぞや

○第一だいいちのいまめにかんぞや  
汝なんぢこれのほり他のま  
のを神とまがら

卅一 第一だいいちのいまめにかんぞや

○ひとりひとりの真まことの神を拜たたふことを教ふ

全二 第二のいまめいあんぞや

○汝おのれのためよ上の天下の地あらびふ地の下の水のなかの物のまにの形をまゝが像としてつくろべからず汝これを拜むべからずまゝにしてまはれてこれを祭るべからずまゝに汝エホバ汝の神をのが威光を他へ歸せんとゆるむべからず神あれはこれとにくむものよづそのしを罰し父より子よおほいし三四代よいしつれを愛ししが掟

よのあはれをのたまはるるにこれよ恩をいへんこゝろ千代よ

全三 第二のいまめいあんぞや

○あめいづみやうの神をばむもこゝろ偶像とせしこゝろを教ふるを

全四 第三のいまめいあんぞや

○汝の神エホバの名を徒よ口よあへんものよ必罰しエホバをその名を徒よ口よあへんものよ必罰し



八十八  
キリストのみちの安息日あんきつの一週間しゅうかんのうらむいづれの  
日ひありや

○主しゅの日ひより一週間しゅうかんのうらむ日ひあり

八十九  
あよゆきよ主しゅの日ひよりや

○キリストキリストこの日に死人しにんのうらむいづれにうた  
まひまひゆきあり

九十  
いかうく安息日あんきつよまよひのよきや

○神かみをいのりかんびかんび聖書せいしょよかへあひひのこれ

まよひのよきや

九十一  
第五のいまいまめいかんぞや

○汝なんぢの父母ふぼとおもんぜよこれ汝なんぢの神かみエホバエホバの汝なんぢふ  
たまふところの地ちふ汝なんぢの命いのちをたがうらあんが  
うらあり

九十二  
第五のいまいまめいかにを教しなるや

○父母ふぼおとび君きみとめうへを愛まひこれよきいづれ  
を教しなるあり

九十三 第六のいまめいあんぞや

○汝人を殺まぶあらず

九十四 第六のいまめいあんぞを教るや

○いぬりの情とあむべしと教る

九十五 第七のいまめいあんぞや

○汝姦淫まぶあらず

九十六 第七のいまめいあんぞを教るや

○いぬりあむべしと教る

きーぶらかり

九十七 第八のいまめいあんぞや

○汝偷盜まぶあらず

九十八 第八のいまめいあんぞを教るや

○正直よきこととあむべしと教

ふかり

九十九 第九のいまめいあんぞや

○汝いしもの証人の証を誣まぶあらず

百 第九のいまめいあまを教ふや

○まこととりのことと教ふや

百 第十のいまめいあまを教ふや

○汝人の家ともしんぢうかへんまへ汝人の妻とて

の僕婢牛驢あまぢうて人のものに何とせむば

ぶぢうぢう

百 第十のいまめいあまを教ふや

○おのれがげんの分限とまもることを教ふや

百 ひとへこの十誡じふがいをまもることを教ふや

○まぢうぢうアダムがまもることを教ふや

たこの十誡じふがいをまもることを教ふや

あまもることを教ふや 耶穌

のこ神よへんとまもることを教ふや

たくまのまもることを教ふや

百 十誡じふがいのまもることを教ふや

○十誡じふがいのまもることを教ふや

救者のあはれみによりてわれらの罪をゆるさるべし

祈禱のこと

百五 いのりのかんざや

○神のこゝろにまかすことなすむがはかり

百六 されられたれの名によりてこのまがかり

○だぶキリストの名よの Jesus Christ

百七 キリストされらばいかにのまがかりをゆるさるべし

百八 主のいのりといはんざや

にあふと賜ひや

○主のいのりまかり

○天よ在りて我儕の父 願はくを御名のあがらるれ

んとを 願はくを御宇の臨まんを ねがはく

は御意の天のごとく地よ行われんとされ

らふ日用の食を今日あはせりて されらば己の

負債人を免む如くわれらの負債を免むべし

れらとくろくよ遇あひせぬが却かへてはれらと悪あくむ  
とひきをもちりく 御宇と權けんと威いと  
ふ神の有あるふものまれば如此かくこれとねがひた  
てまつる

百九 主しゆのいのりけうちよりつものねがひあつた

○六むつあり

草 第一のねがひいあんぞや

○御名みなのあびられんよと

百 第一のねがひいれらちよと

○これらとまづての人々神の御名みなとや  
ねがひあり

百 第二のねがひいれらちよ

○御宇みうの臨りんよと

百 第二のねがひいれらちよと

○福音ふくいんの世界せかいいりまりとれらとまづての人々こ  
れと信しんトこれよとねがひあり



百四 第三のねがひはかんきや

○御意おんごいの天あまのごとく地ちよを行おこなわれんとすなり

百五 第三のねがひはみれらるる事とすなり

○神かみの使つかひ天あまよ於おつら奉たたまむごとくひとく地ちよ於おつらつらとすなり

百六 第四のねがひはまんきや

○これらに日用にちようの食けと今日こんにちあひくさるる  
第四のねがひはみれらるる事とすなり

百七

○神かみれらのかたごとくたまひ必要ひつやうあるものと  
悉しつくたまはらん事とすなり

百八 第五のねがひはかんきや

○これらご己おのれの負債ふさい人ひととゆるすごとくれらの負債ふさい  
とゆるしめらるる事なり

百九 第五のねがひはみれらるる事とすなり

○神かみキリストの御おんなみれらの罪つみとゆるしめらるる  
事とすなり

百廿

これらより起さるるものなるべし

第六のねがひのあんが

○これらより起るるものなるべし却てこれらより徳

を起すものなるべし

百廿

第六のねがひのあんが

○神にこれらより起るるものなるべし

を起すものなるべし

聖禮典のこと

百廿

新約の禮典をいふは

○ふりかへり

百廿

そのふりかへり

○バプテスマと主の晩餐

百廿

この禮典をたゞのふりかへり

○主耶穌キリスト

百廿

キリストのふりかへりこの禮典をたゞのふりかへり

○その門徒たちと世の人の入信する者とは異なる者たち  
の心と安んずる者とは異なる力と與へらるるがため  
あり

眞バプテスマとは

○水と

眞それのちん義

○それらがキリストの御血

めらるる

眞それらこれの名よらまられてバプテスマを受るや

○父と子と聖靈の名よらまられて

眞バプテスマを

○信

眞

○そのはをある性質

わらるるの親

誓その御教會に

頁二

キリストのたまはるるをわきまのしるしを

○志かき 耶穌のたまはるるをわきまのしるしを

とじきしるしをわきまのしるしをわきまのしるしを

よきまのしるしをわきまのしるしを

頁三

あんぢバプテスマをうけ 故よめにあうのよめに  
てあうぢまや

頁三

○キリストにまゐるよきまのしるしをわきまのしるしを  
主の晩餐のあんぢや

○キリストの死と苦と情をよめにパンとくらひ葡  
萄酒とのむきや

頁四

そのパンはあはれよきまのしるしを

○これらのしるしをわきまのしるしをわきまのしるしを  
御體とあはれよきまのしるしを

頁五

その葡萄酒はあはれよきまのしるしを

○これらのしるしをわきまのしるしをわきまのしるしを  
御血とあはれよきまのしるしを



よりのまはる

百三

死しーひとびとの肉體にくたいはまもくもくはらるるが

○あはれなるはらるる死しー入いるはらるるは  
んんとまはるるはらるる

百四

悪入あくいのまはるるの日ひよりかへるるが

○ぢごくのあがらるるが

百五

ぢごくのあがらるるが

○あがらるるが

百六

まはるるの日ひに義入ぎいのあがらるるが

○天てんよあがらるるが

百七

天てんよりあがらるるが

○榮光えいこうと歡樂くわんらくのまはるるのま

はらるるが

明治廿二年一月十日印刷  
明治廿二年一月十二日出版

(定價金三錢)

翻譯兼  
發行者

東京府士族

奧野昌綱

東京麹町區三番町  
七十一番地

東京府平民

廣瀬安七

東京日本橋區兜町  
壹番地製紙分社

印刷者

EX 653

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100



